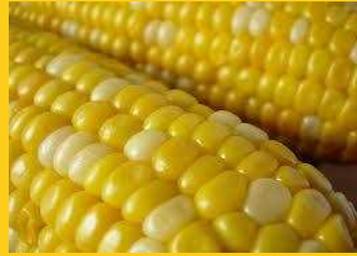




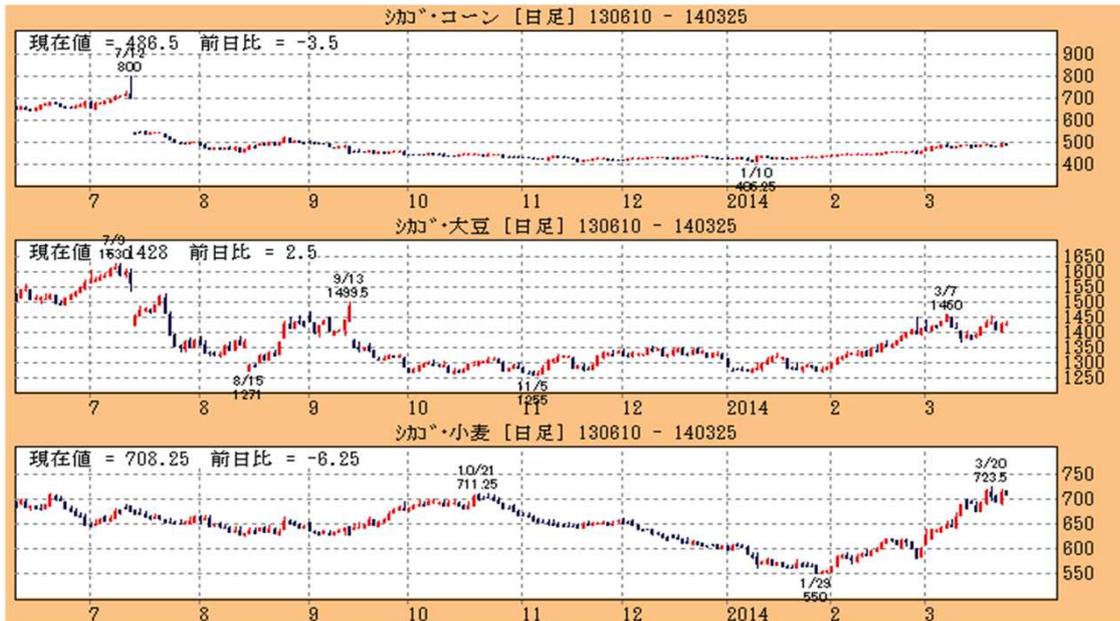
週刊穀物



世界の穀物情報がここに凝縮されています。
毎週水曜日夕方発行

穀物価格横ばい中

発行日 : 2014/3/26



3月25日のシカゴトモロコシ5月限は3.50セント安の486.50セント。小麦や大豆の反発をはやして489.50セントまで持ち直したが、プラスに浮上する勢いはなく、戻り売りで地合いを弱めた。米国に来週気温上昇予報が出され、作付け遅れ懸念が後退したことが圧迫要因。ただ、10日移動平均（484.30セント）を維持して回復した。インフォーム・エコノミクスが米国作付面積見通しを下方修正したが、市場への影響は限られた。最近のレンジ（473.25～493.25セント）から抜け出すだけの材料に欠け、昨日、レンジの上放れに失敗したことから売りが先行した。レンジから脱するまで逆張りの方針を継続、もみ合い期間が続けば続くほどエネルギー蓄積とみるのがテクニカルセオリーで、レンジに関連したポジションがたまっているとみられている。相場に対する強気・弱気、ボラティリティー（相場変動率）に対する強気・弱気が交錯、取引のアイデアには事欠かず、仕掛けには絶好の展開となっている。ウクライナ農業省は、昨年7月1日から3月24日までのウクライナ穀物輸出を2680万トンとし、前年同期を41%上回った。内訳は、小麦766万トン、コーン1672万トン、大麦215万トン。ロシア農業省は、3月24日までのロシア春作物作付け面積を39万6400ヘクタール、作付意向面積の0.8%とし、昨年同期を4万7000ヘクタール下回った。ロシアの春作物作付け意向面積は3180万ヘクタールで、前年比1.7%増加。ロシア農業省は、今年のロシア穀物収穫を9500万トンと予想している。中国は未承認の遺伝子組み換え（GM）品種の混入調査を踏まえ、米トモロコシの受け入れをさらに拒否している。バイヤーらは中国の国家備蓄の販売を待ったり、買い付け先を安価なウクライナに変更したりしている。

25日のシカゴ大豆5月限は2.50セント高の1428.00セント。昨日の急伸に対する反動で売りが優勢になったが、ブラジル生産高見通しの下方修正や、寒波による米国の作付け遅れ懸念で反発した。前日高値（1432.75セント）にとどかなかつたことやドル高、米国の気温上昇予報で値を消したが、株・原油の反発でプラスを回復した。立会時間は、2.50セント高で寄り付き、投機買いが続いて時間外取引の高値や前日高値（1432.75セント）を突破し、1436.00セント（10.50セント高：0.7%）まで値を飛ばした。戻り売りで1421.50セントまで反落したが、押し目買いでプラスに浮上した。ブラジル大豆生産高見通しの下方修正や、米国産地の寒波による作付け遅れ懸念、10日移動平均（1409.30セント）超えによるテクニカル改善が強材料。米国の天気は4月に入ってから気温上昇が予報されることや、飼料穀物相場の下落が足をひっぱったが、ドル反落で押し目買いが入った。

25日のシカゴ小麦5月限は6.25セント（0.9%）安の708.25セント。農務省の作付け意向と四半期在庫の報告を31日に控え、投資家らはポジションを調整している。トレーダーによる平均予想では、3月1日時点の在庫は10億4200万ブッシェルと、昨年12月1日時点の14億6300万ブッシェルから減少した。また、全小麦の作付け見通しは5627万7000エーカー。デュラム小麦以外の春小麦は1227万エーカー、デュラム小麦は179万4000エーカーの予想。ロシアではここ数年、穀物収穫量が穏やかに伸びている。農家がイールド（単位面積当たり収量）の引き上げや、港へのアクセスが良い地域の土地取得に努めていることが背景。プレーンズ南部の土壌の乾燥への懸念に支援された。米農務省の週間報告では、カンザス、オクラホマ、テキサス各州で品質低下が指摘された。（日本先物情報ネットワーク）



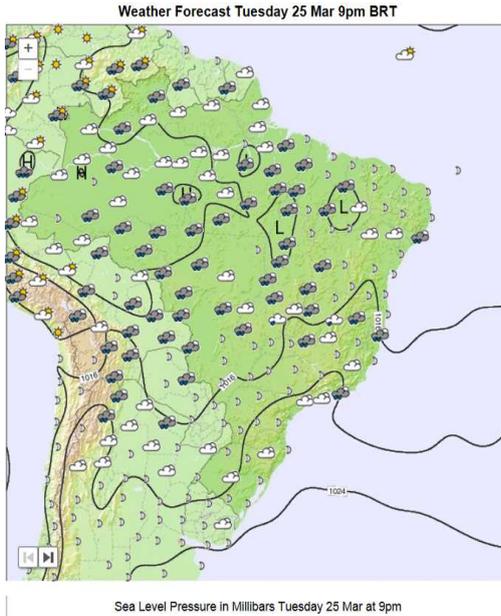
TOPIC s 南米の天候

南米産地の天気概況は、ブラジル産地北部は過去24時間、概ね乾燥した天気となり、気温は28～34℃だった。火曜、水曜は、北部を除き概ね乾燥した天気となり、気温は28～34℃となるだろう。木曜から土曜はにわか雨が予報され、気温は平年並みから上回るだろう。

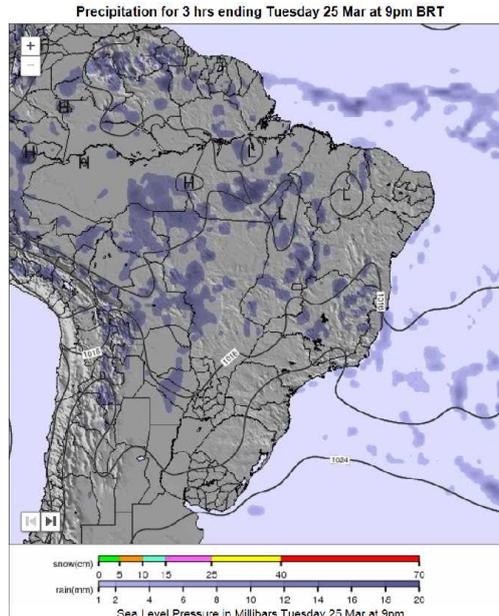
ブラジル産地南部は過去24時間、概ね乾燥した天気となり、気温は22～29℃だった。火曜、水曜は概ね乾燥した天気となり、気温は23～30℃となるだろう。木曜から土曜は概ね乾燥した天気が予報され、気温は平年並みから上回るだろう。

週央まで収穫日和となるが、後半は雨がちの天気となり、収穫が遅れるだろう。

アルゼンチン産地は過去24時間、乾燥した天気となり、気温は24～28℃だった。火曜、水曜は乾燥した天気が予報され、気温は24～29℃となるだろう。木曜から土曜は、北部で雨が降る一方、南部は概ね乾燥した天気となるだろう。



ブラジルの天気（現地時間25日9時の天気）

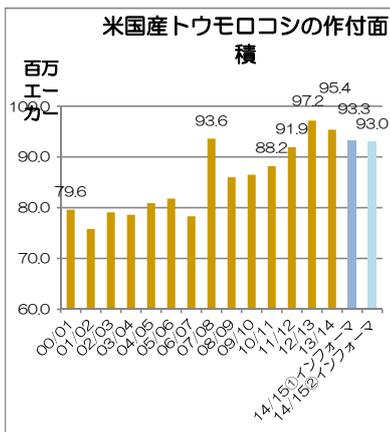


ブラジルの天気（現地時間25日9時の降雨）

出所： Weather Forcast.com

TOPIC s インフォーマエコノミクスの作付面積予想

有力調査会社の米インフォーマ・エコノミクスは、今年の米国大豆・コーン作付面積見通しを下方修正する一方、小麦を上方修正した。同社は、大豆を8120.4万エーカー（前回8126.4万エーカー）、コーンを9302.9万エーカー（前回9331.9万エーカー）にそれぞれ下方修正した。昨年実績は、大豆7650万エーカー、コーン9540万エーカー。一方、同社は、全小麦作付面積を5664.8万エーカーとし、前年実績の5615.6万エーカーを上回った。冬小麦は前回の4190万エーカーから4254.2万エーカーに上方修正された。**13年に比べ、トウモロコシは▲2.5%減、大豆が＋6.1%増、小麦は＋0.8%増である。**





TOPICS 昨年までの州ごとの品種別 作付意向面積推移

トウモロコシの作付意向面積

千エーカー	11年	12年	13年	前年比	前年比%
アイオワ	14,100	14,200	14,200	+0	+0
イリノイ	12,600	12,800	12,200	▲600	▲0
ネブラスカ	9,850	10,000	9,900	▲100	▲0
ミネソタ	8,100	8,750	9,000	+250	+0
インディアナ	5,900	6,250	6,100	▲150	▲0
サウスダコタ	5,200	6,150	5,900	▲250	▲0
カンザス	4,900	4,700	4,600	▲100	▲0
ウィスコンシン	4,150	4,350	4,350	+0	+0
ノースダコタ	2,230	3,600	4,100	+500	+0
オハイオ	3,400	3,900	3,950	+50	+0
ミズーリ	3,300	3,600	3,400	▲200	▲0
ミシガン	2,500	2,650	2,600	▲50	▲0
テキサス	2,050	1,850	2,100	+250	+0
ケンタッキー	1,380	1,650	1,600	▲50	▲0
ペンシルバニア	1,420	1,460	1,480	+20	+0
コロラド	1,500	1,420	1,250	▲170	▲0
ニューヨーク	1,100	1,170	1,200	+30	+0
ミシシッピ	810	820	1,050	+230	+0
アーカンザス	560	710	1,000	+290	+0
テネシー	790	1,040	970	▲70	▲0
ノールカロライナ	870	860	890	+30	+0
ルイジアナ	580	540	600	+60	+0
カリフォルニア	630	610	560	▲50	▲0
バージニア	490	510	520	+10	+0
ジョージア	345	345	495	+150	+0
メリーランド	500	495	470	▲25	▲0
アイダホ	350	360	380	+20	+0
サウスカロライナ	360	330	345	+15	+0
オクラホマ	380	360	340	▲20	▲0
アラバマ	270	310	330	+20	+0
ワシントン	195	185	190	+5	+0
デラウエア	190	185	180	▲5	▲0
ニューメキシコ	130	125	130	+5	+0
モンタナ	77	105	115	+10	+0
ワイオミング	1,056	105	105	+0	+0
ニュージャージー	90	95	100	+5	+0
ユタ	85	92	95	+3	+0
バーモント	90	91	92	+1	+0
アリゾナ	60	75	85	+10	+0
オレゴン	83	85	85	+0	+0
フロリダ	70	75	80	+5	+0
ウェストバージニア	48	51	49	▲2	▲0
メイン	29	30	30	+0	+0
コネチカット	27	27	27	+0	+0
マサチューセッツ	17	16	16	+0	+0
ニューハンプシャア	15	14	14	+0	+0
ネバダ	8	8	8	+0	+0
ロードアイランド	2	1	1	+0	+0
米国全体	91,936	97,155	97,282	+127	+0

大豆の作付意向面積

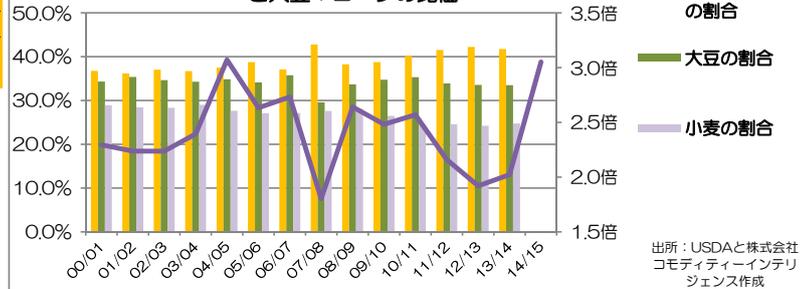
千エーカー	11年	12年	13年	前年比	前年比%
イリノイ	8,950	9,050	9,400	+350	+0
アイオワ	9,350	9,350	9,400	+50	+0
ミズーリ	5,350	5,400	5,300	▲100	▲0
インディアナ	5,300	5,150	5,100	▲50	▲0
ノースダコタ	4,000	4,750	4,900	+150	+0
ネブラスカ	4,900	5,050	4,700	▲350	▲0
オハイオ	4,550	4,600	4,650	+50	+0
サウスダコタ	4,100	4,750	4,600	▲150	▲0
カンザス	4,000	4,000	3,900	▲100	▲0
サウスカロライナ	370	380	3,870	+3,490	+9
ジョージア	155	220	280	+60	+0
アーカンザス	3,330	3,200	3,250	+50	+0
テネシー	1,290	1,260	2,360	+1,100	+1
ミシガン	1,950	2,000	2,100	+100	+0
ミシシッピ	1,830	1,970	1,950	▲20	▲0
ウィスコンシン	1,620	1,710	1,700	▲10	▲0
ノールカロライナ	1,380	1,590	1,580	▲10	▲0
ケンタッキー	1,490	1,480	1,500	+20	+0
ルイジアナ	1,020	1,130	1,110	▲20	▲0
ミネソタ	7,100	7,050	680	▲6,370	▲1
バージニア	560	590	570	▲20	▲0
ペンシルバニア	500	530	560	+30	+0
メリーランド	470	480	480	+0	+0
アラバマ	300	340	410	+70	+0
オクラホマ	440	420	410	▲10	▲0
ニューヨーク	280	315	320	+5	+0
デラウエア	170	170	170	+0	+0
テキサス	165	125	120	▲5	▲0
ニュージャージー	88	96	90	▲6	▲0
フロリダ	18	21	25	+4	+0
ウェストバージニア	20	21	21	+0	+0
米国全体	75,046	77,198	77,126	▲72	▲0

2000年～2013年までの12月から2月までのシカゴ大豆価格÷トウモロコシ価格は平均で2.41倍であった。ところが今年は3.05倍となっている。つまり大豆の方がトウモロコシより3倍の価格になっており、大豆を作付けした方が収益が上がるという状況が今年であるため、上記インフォーマエコノミクス社のように大豆の作付けが+6%増加し、トウモロコシが▲2%減少するという見通しになっている。

小麦 (All Wheat) の作付意向面積

千エーカー	11年	12年	13年	前年比	前年比%
カンザス	8,800	9,500	9,300	▲200	▲0
ノースダコタ	6,800	7,840	7,650	▲190	▲0
テキサス	5,300	5,700	5,700	+0	+0
モンタナ	5,100	5,770	5,480	▲290	▲0
オクラホマ	5,100	5,400	5,400	+0	+0
サウスダコタ	2,908	2,405	2,358	▲47	▲0
ワシントン	2,380	2,210	2,230	+20	+0
コロラド	2,345	2,363	2,217	▲146	▲0
ネブラスカ	1,520	1,380	1,450	+70	+0
ミネソタ	1,580	1,390	1,400	+10	+0
アイダホ	1,471	1,313	1,318	+5	+0
ミズーリ	790	790	1,100	+310	+0
ノールカロライナ	700	830	960	+130	+0
オレゴン	990	885	890	+5	+0
イリノイ	800	660	830	+170	+0
アーカンザス	620	550	710	+160	+0
カリフォルニア	790	750	700	▲50	▲0
ケンタッキー	540	580	680	+100	+0
オハイオ	880	500	630	+130	+0
ミシガン	700	570	590	+20	+0
テネシー	420	420	550	+130	+0
インディアナ	430	350	470	+120	+0
ニューメキシコ	435	450	420	▲30	▲0
ジョージア	250	290	400	+110	+0
ミシシッピ	360	370	400	+30	+0
メリーランド	260	310	330	+20	+0
ウィスコンシン	345	265	320	+55	+0
バージニア	27	280	290	+10	+0
アラバマ	270	220	260	+40	+0
ルイジアナ	240	285	240	▲45	▲0
サウスカロライナ	190	235	240	+5	+0
ペンシルバニア	185	165	200	+35	+0
ユタ	151	155	161	+6	+0
ワイオミング	150	150	145	▲5	▲0
ニューヨーク	120	100	125	+25	+0
デラウエア	80	85	80	▲5	▲0
アリゾナ	87	115	76	▲39	▲0
アイオワ	22	18	40	+22	+1
ニュージャージー	35	33	38	+5	+0
ネバダ	23	26	28	+2	+0
フロリダ	12	20	23	+3	+0
ウェストバージニア	10	8	11	+3	+0
米国全体	54,409	55,736	56,440	+704	+0

作付け面積の割合 (トウモロコシと大豆と小麦の合計比) と大豆÷コーンの比価





TOPICS 昨年と今年3ヶ月の各種価格の動きの特徴

2013年1月4日を100とした12月31日の価格指数			
	12月31日		12月31日
米国5年債利回り	+114.1	韓国	▲0.0
米国10年債利回り	+58.0	香港ハンセン	▲0.1
日経平均株価	+52.4	北海プレント価格	▲0.5
米国2年債利回り	+43.3	ドルインデックス	▲0.6
NY天然ガス	+26.9	VIX指数	▲0.8
S&P500	+26.0	米ドル/韓国ウォン	▲1.2
インドネシアルピア	+25.9	フィリピンPSI	▲1.4
ユーロ/円	+25.5	シンガポールFTSTI	▲1.8
東京一般大豆	+24.0	ドル/中国元	▲2.8
DOW平均株価	+23.4	ジャカルタ総合指数	▲3.1
東京パラジウム	+23.2	ドル/スイスフラン	▲3.4
東京原油	+23.0	CRB指数	▲4.7
ドイツDAX	+22.8	シカゴ大豆	▲5.5
南アランド	+22.2	NY銅	▲8.0
トルコリラ	+20.5	タイSETI	▲8.3
ドル/円	+19.5	ロシアロイター	▲8.5
ベトナムVNI	+18.4	LME銅	▲9.0
東京ガソリン	+17.5	東京ゴム	▲10.8
ブラジルレアル	+16.1	NY白金	▲11.8
ブラジルレアル	+16.1	東京金	▲12.4
フランスCAC	+15.2	LMEアルミ	▲12.6
豪州オールオーティナリス	+12.9	NY砂糖	▲12.9
ドル/インドルピー	+12.5	ロンドンコーヒー	▲13.5
英国FTSE	+10.8	豪ドル/米ドル	▲14.9
台湾加権	+10.3	豪ドル/米ドル	▲14.9
マレーシアKLSE	+10.3	ブラジルポベスバ	▲17.6
シカゴ大豆粕	+9.9	大阪コメ	▲17.9
ロシアルーブル	+8.5	シカゴ小麦	▲19.0
東京灯油	+8.4	東京銀	▲19.7
ドル/カナダドル	+7.6	シカゴ大豆油	▲21.4
ドル/カナダドル	+7.6	NYコーヒー	▲24.9
マレーシアリンギ	+7.5	NY金	▲27.1
タイバーツ	+7.3	NY銀	▲35.3
インドセンセックス	+7.0	シカゴコーン	▲38.0
東京白金	+6.6		
NY原油	+5.7		
ユーロ/ドル	+5.2		
NYパラジウム	+4.3		
東京粗糖	+3.6		
英ポンド	+3.0		
上海B株	+2.5		
NYヒートンクオイル	+2.0		
東京コーン	+1.4		
ベトナムドン	+1.2		
NYガソリン	+0.8		

2013年1月4日を100とした2013年12月31日の価格指数は、米国債利回りが最も上昇して114.1%と2倍以上になった。また日経平均株価は一年で58%上昇。S&P500が26%、ドイツDAXが22%、ベトナムVNIが18%等、株価が世界的に上昇した年であった。

またもう一つの特徴として、インドネシアルピアは26%下落、南アランドは22%、トルコリラは20%等新興国通貨が下落（ドル高新興国通貨安）した。それは、円についても言えてユーロ円は25%、ドル円は19%円安になった年であった。

商品価格では、天然ガス価格が26%上昇したほかは円安効果で東京一般大豆、東京パラジウムが2割以上の上昇となっているが、金をはじめとして総じて商品価格は下落した物の方が多い年であった。31商品中6割強の19商品が下落している。

それに引き替え、今年の1月2日を100とした3月25日までの約3ヶ月間の指数を見ると、NYコーヒーの57%を筆頭に、小麦やトウモロコシ、大豆価格が1割以上上昇しており、上昇している商品数は31商品中19商品と昨年とは逆に6割が上昇している。

ロシアロイター指数株価が最も値下がりして▲18%であるが、日経平均株価も▲11%、上海総合指数株価も▲10%、ブラジルポベスバも▲4%下落している。通貨ではロシアルーブルが7%下落している。

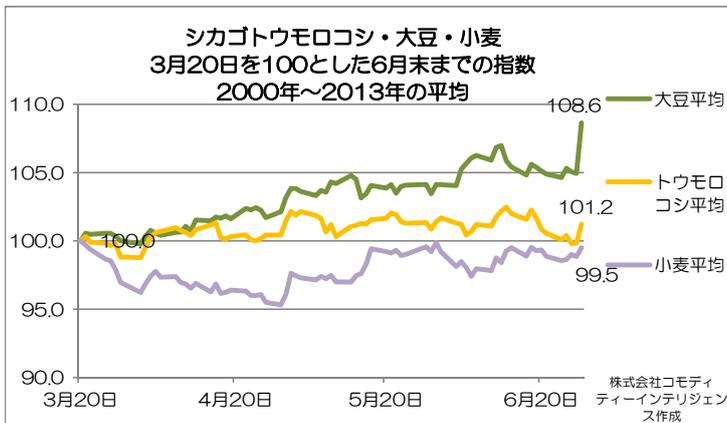
商品の中でも、穀物や農産物価格の上昇が著しい。

これはウクライナからの小麦とトウモロコシ出荷に不安がでたことと、米国の冬小麦で土壌水分が不足気味だとの情報から小麦価格が高騰したためであるが、もっぱらそれまで売られていたトウモロコシと小麦が買い戻されて、ファンドの建玉がネット売り残から買い残に移行したことも大きな要因に挙げられる。

2014年1月2日=100とした3月25日の価格指数			
	3月25日		3月25日
NYコーヒー	+57.4	豪州オールオーティナ	▲0.4
ロンドンコーヒー	+31.6	東京灯油	▲0.4
ベトナムVNI	+19.3	DOW平均株価	▲0.4
シカゴ小麦	+18.6	ドイツDAX	▲0.7
シカゴコーン	+15.7	NY銀	▲0.7
米国2年債利回り	+11.7	北海プレント価格	▲0.7
シカゴ大豆	+11.0	ドルインデックス	▲0.9
タイSETI	+10.0	マレーシアKLSE	▲0.9
シカゴ大豆粕	+9.4	タイバーツ	▲1.2
インドネシアジャカル	+8.7	韓国	▲1.3
東京パラジウム	+8.6	ユーロ/円	▲1.3
CRB指数	+8.5	VIX指数	▲1.5
NYパラジウム	+8.2	東京銀	▲1.6
ロシアルーブル	+7.2	英国FTSE	▲1.7
NY金	+7.1	ドル/スイスフラン	▲1.9
NYガソリン	+7.0	NYヒートンクオイル	▲2.2
フィリピンPSI	+5.9	シンガポールFTSTI	▲2.2
シカゴ大豆油	+5.8	ドル/円	▲2.4
インドセンセックス	+5.6	LMEアルミ	▲2.8
東京金	+5.6	ドル/インドルピー	▲2.9
ドル/カナダドル	+4.7	ブラジルレアル	▲3.2
NY砂糖	+4.2	ブラジルポベスバ	▲4.3
東京コーン	+4.0	東京一般大豆	▲4.8
NY原油	+3.9	インドネシアルピア	▲6.3
東京粗糖	+3.8	香港ハンセン	▲6.9
豪ドル/米ドル	+2.9	米国10年債利回り	▲7.9
フランスCAC	+2.8	東京ガソリン	▲8.0
NY天然ガス	+2.7	東京原油	▲8.4
米ドル/韓国ウォン	+2.7	上海B株	▲10.0
ドル/中国元	+2.5	LME銅	▲10.7
トルコリラ	+1.9	NY銅	▲11.1
S&P	+1.8	大阪コメ	▲11.3
NY白金	+1.3	日経平均株価	▲11.5
ユーロ/ドル	+1.1	東京ゴム	▲13.6
米国5年債利回り	+1.0	ロシアロイター	▲18.9
東京白金	+0.9		
台湾加権	+0.9		
南アランド	+0.5		
マレーシアリンギ	+0.5		
英ポンド	+0.5		
ベトナムドン	+0.1		



TOPICS 3月20日に買った場合の6月30日までの価格の結果



3月20日から6月30日までのシカゴトウモロコシ、大豆、小麦の価格の動きを2000年から2013年までの14年間で検証すると、大豆価格は6月末に平均8.6%上昇し、トウモロコシ価格は平均1.2%上昇している。小麦はほぼ横ばいであった。

これは、作付けから開花受粉までの今後の数ヶ月間の天候はだれにも予想ができないが、ひょっとしたら、降雨が少なく、干ばつが全米を襲うかもしれないという思惑から、とりあえず買っておこうという心理的行動があるのではないだろうか。

今後の予想

昨夜は東京商品取引所で、(株)グリーンカウンティの大本尚之氏の「トウモロコシ相場高騰のシナリオ」というセミナーがあった。同氏は今年の天候がどうなるかは全くわからないが、4ドル台のトウモロコシ価格は割安に見るといふ。ブラジルの輸出価格も米価並みとなっており、それほど魅力的ではないとのこと。筆者は、米国の期末在庫率が4.5%と少ないが、大豆はどうかと質問したところ、確かに非常に少ない在庫量であるが、それはすでにある程度織り込まれた価格になっており、在庫が底を尽きかける7月～8月にかけて14ドルの大豆価格が更に高くなっても、それは旧穀価格のことであり、もう2ヶ月待てば安い新穀が出てくると思えば、高い大豆の買いを手控えることも考えられるとの説明であった。その点トウモロコシは大豆と比較してもかなり割安であり、作付け面積が減少することからも買いが有利だといふ。

掲載される情報は株式会社コモディティールンテリジェンス（以下「COMMI」といふ）が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMIが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMIは保証を行なっており、また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はCOMMIに帰属し、事前にCOMMIへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。

COMMIが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少させることもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMIは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。

COMMIおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。



発行元：

株式会社コモディティールンテリジェンス
〒103-0014東京都中央区日本橋蛸殻町1丁目11-3-310
会社電話：03-3667-6130 会社ファックス 03-3667-3692
メールアドレス：kondo@commi.cc